

# 特定非営利活動法人 移動支援 Rera



## 2017 年度 事業報告書<案>

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

### 《事業報告書概要》

0. 団体概要	……2
I. 移動困難な住民の送迎支援活動	……4
II. 福祉有償運送事業	……9
III. 情報収集・調査・情報発信事業	……9
IV. 住民同士の交流・親睦事業	……14
V. その他の事業	……14
VI. 運営に関する報告	……15

# 団体概要

## 【特定非営利活動法人移動支援 Rera 定款第 3 条】

この法人は、移動困難な住民に対して、送迎活動等のサポート事業を行うことにより、生活する上で必要不可欠な移動手段を確保し、彼らの健全な生活の維持に寄与することを目的とする。

## 団体のあゆみ

- |        |          |  |
|--------|----------|--|
| 2011 年 | 3 月 11 日 | 東日本大震災発災   |
|        | 3 月 15 日 | NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センターが宮城県石巻市入り<br>被災障害者の支援を行いつつ瓦礫撤去、避難所設営、物資整理等に協力。 |
|        | 4 月 8 日  | 現地支援活動団体名を『災害移動支援ボランティア Rera』と決定<br>活動内容を「移動困難な被災住民の送迎」に集中させる。       |
| 2012 年 | 4 月 1 日  | 運営主体が石巻地区の住民ボランティアに移行<br>行政・民間連携による『石巻地区災害移動支援連絡会』開催（～翌年 3 月）        |
| 2013 年 | 2 月 15 日 | 宮城県認証の『NPO 法人移動支援 Rera』設立<br>地域住民主体の団体として移動支援活動を継続。                  |



## ◆活動開始から 2018 年 3 月末までのデータ

累積送迎人数（2011 年 7 月～）	..... <u>124,280</u> 名
送迎名簿登録者数（2011 年 7 月～）	..... <u>1,584</u> 名
車両総走行距離（計算値含む）	..... <u>約 157 万 km</u> (地球約 39 周)
レラメイト登録者数	..... <u>354</u> 名

## 移動支援 Rera の目指す社会

---

『移動手段を持たず外出できない住民が、送迎支援や助け合い、公共交通など、それぞれに適した方法で外出手段を得ることにより、心身の健康維持や生きがいづくりなどにつながり、健全で心豊かな生活を送ることができる社会』

### 2017 年度事業活動方針（事業計画書より）

---

当団体による 6 年間の送迎のべ人数はすでに 12 万名を越え、日々の積み重ねにより着実に活動の足跡を残してきた。石巻地域における移動支援活動への認知は時間と共に広がり、利用者や福祉関係者だけでなく行政や中間支援団体などから評価を受ける機会も増えてきた。また、女川町の透析患者のためのタクシー券補助の対象団体に採用されるなど、地域の自治体に移動困難者を支える担い手の一つとして期待されるようになってきた。

2017 年度は、こうした日々の積み重ねにより生まれた信頼関係を強化し発展させ、住民の目線に立つ移動の新たな仕組み作りに力を入れる一年とする。

利用者との支え合いの仕組み『レラメイト』の開始など、持続性の高い組織づくりへの取り組みをはじめた 2016 年度に引き続き、外出困難者がいつまでも安定した移動手段を持つことができる地域を目指した組織づくりに力を入れる。

持続性の高さと収支バランスの安定性を考慮しつつ、スタッフ体制を「雇用スタッフ」と「ボランティア」の二輪化とし、それぞれの立場の強みを活かした組織づくりを行う。

また、外部協力者と連携した組織基盤強化（スタッフ研修等）を継続し、主体性の高い自立した組織形成に取り組む。

# 事業報告

## I. 移動困難な住民の送迎支援活動



### I-1. 【移動困難な住民の送迎事業】

- ◆ 2011年の任意団体結成時より行ってきた移動困難者の送迎活動を、2017年度も継続して安定的に行うことができた。
- ◆ 送迎対象者…公共交通による移動が困難で、家族などが送迎できず、高額な交通費の支払いが経済的に困難な住民。
- ◆ 送迎範囲…石巻市・東松島市・女川町の住民。送迎の利用上限は基本的に週2回まで。
- ◆ 送迎形態…道路運送法上「登録を要さない」無償の範囲内として、送迎にかかる実費程度として、2kmごとに100円を『協力費』として利用者をお願いした。
- ◆ 車両8台（うち6台福祉車両）を使用。
- ◆ 利用希望者は『同意書』『申告書』を団体へ提出。団体は名簿登録して管理。
- ◆ 2017年1月より、新たな送迎利用者との支え合いの会員制度『レラメイト』を開始している。

### 【活動実績】

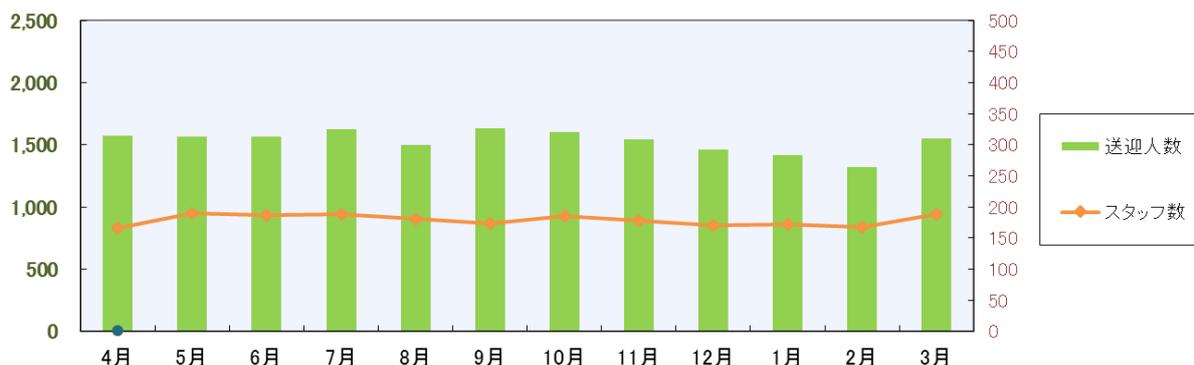
#### 《実施期間》

2016年4月1日～2017年3月31日のうち、日曜、元日、研修、総会を除く毎日。  
(年末年始、お盆、ゴールデンウィーク期間は一部透析送迎のみ。)

## 《実施内容》

### 移動支援Rera 2017(平成29)年度送迎集計

	29年												30年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	日平均
送迎人数	1,571	1,564	1,568	1,627	1,496	1,634	1,600	1,539	1,459	1,417	1,317	1,548	18,340	1,528	67
送迎回数	1,296	1,306	1,323	1,373	1,262	1,367	1,314	1,279	1,187	1,154	1,102	1,303	15,266	1,272	56
スタッフ数	166	189	186	188	181	174	185	178	171	172	168	188	2,146	179	7.9



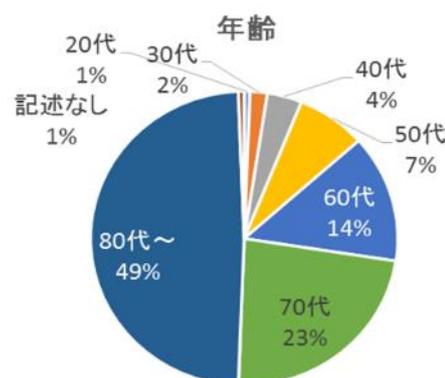
- ◆ 年間合計のべ **18,340** 名、月平均 **1,272** 名の送迎を行った。
- ◆ 活動人数の大きな変動なく続けることができた。
- ◆ 送迎活動や本部業務に継続的に関わる地元の新規ボランティアが数名追加された。
- ◆ 前年度より開始した新たな利用者と団体の支え合いの仕組み『レラメイト』は順調に浸透。

## 【利用者アンケート】

当団体と内閣府による利用者向けアンケート調査を実施した。(以下一部抜粋)

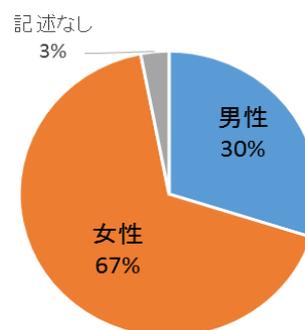
### ①利用者年齢

20代	1
30代	3
40代	6
50代	12
60代	23
70代	38
80代～	80
記述なし	1
合計	164



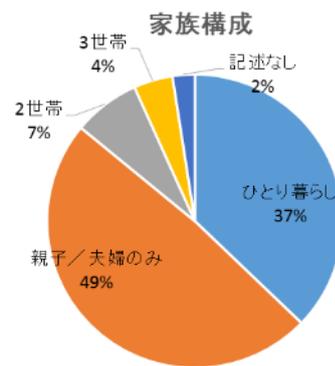
### ②性別

男性	49
女性	110
記述なし	5
合計	164



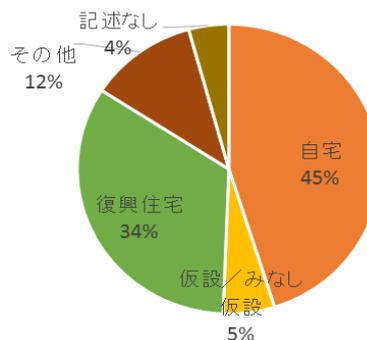
### ③家族構成

ひとり暮らし	61
親子／夫婦のみ	80
2世帯	12
3世帯	7
記述なし	4
合計	164



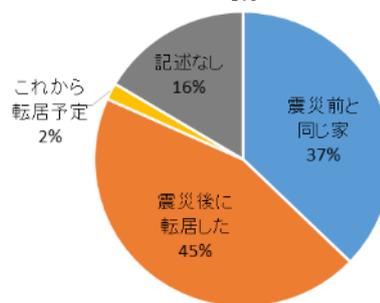
### ④住宅

自宅	74
仮設／みなし仮設	9
復興住宅	55
その他	19
記述なし	7
合計	164



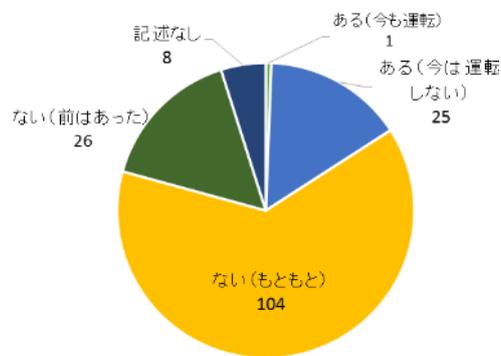
### ⑤住環境の変化

震災前と同じ家	61
震災後に転居した	73
これから転居予定	3
記述なし	27
合計	164



### ⑥運転免許

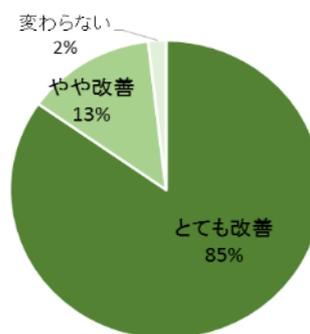
ある（今も運転）	1
ある（今はしていない）	25
ない（もともと）	104
ない（前はあった）	26
記述なし	8
合計	164



### 《送迎による効果》

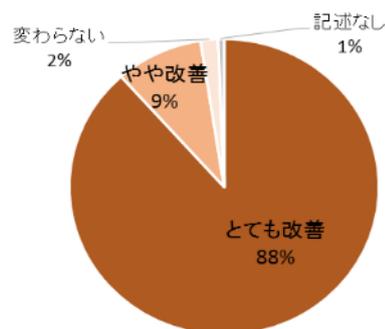
#### ⑦寂しさや不安が軽減した

とても改善	139
やや改善	22
変わらない	3
やや悪化	0
とても悪化	0
記述なし	0
合計	164



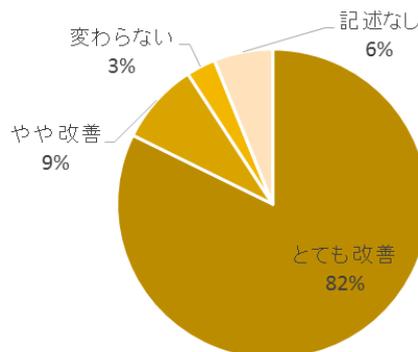
⑧心身の健康維持に役立った

とても改善	145
やや改善	15
変わらない	3
やや悪化	0
とても悪化	0
記述なし	1
合計	164



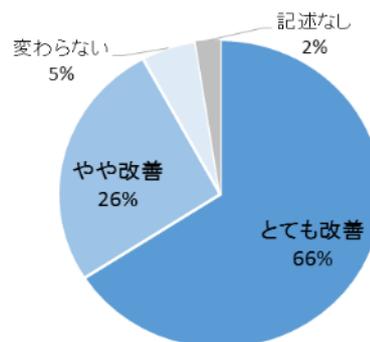
⑨家族の負担が軽減した

とても改善	135
やや改善	14
変わらない	5
やや悪化	0
とても悪化	0
記述なし	10
合計	164



⑩これからの生活に前向きになった

とても改善	108
やや改善	43
変わらない	9
やや悪化	0
とても悪化	0
記述なし	4
合計	164



- 年代は **80歳以上**が利用者全体の半数を占めている。
- **女性**、もともと**運転免許を持たない**利用者が多数。
- **夫婦または親子のみ**の世帯が半数、**独居**も 37%と大きな割合を占める。
- およそ半数の利用者が**震災後に転居**、あるいはこれから転居予定と、震災を機に住環境が変わる利用者が多く、大半が転居を終えていることがわかった。
- 転居の状況に合わせて、仮設住宅／みなし仮設住宅の割合が減少。**自宅**に暮らす利用者も多く、**居住先の多様性**が伺える。
- 送迎による効果として、本人の寂しさや不安の軽減、心身の健康状況の改善に直接大きな効果があったというだけでなく、家族の負担が軽減したという回答が **9割以上**と取り巻く環境や人間関係にも良い効果があることがわかった。また、外出手段を得ることがこれからの生活を前向きに送ることに高い効果を持っていることもわかった。

## I-2. 【付き添いつきお出かけ事業】

- ◆ 外出の機会が少ない利用者を対象とした、付き添いつきの「お出かけ」送迎を実施した。
- ◆ 体調などの理由で一人での買物や娯楽をあきらめている利用者にもスタッフが付き添うことにより、普段の送迎では行けない場所へも行ける機会を持ち、利用者の外出の機会を創出。
- ◆ 「欲しいものを買う」など、個人の欲求を満たす手段だけでなく、利用者同士やスタッフ、ボランティアなどとの交流を楽しむ場の提供となった。
- ◆ 「家から出るだけで目的を果たしたようなもの」「何年ぶりかで外出できて嬉しい」等、利用者からは参加を喜ぶ声、次回を楽しみにしている声が数多く寄せられた。
- ◆ 通常の送迎が休みの日曜日を開催日とし、月に一度～二度、年間継続して開催した。
- ◆ 平日の送迎スタッフだけでなく、このイベントに参加するために県外などからボランティアが集まり、活動の担い手となった。お陰で通常スタッフに無理な負担をかけずに実施できた。



### 《付き添いつきお出かけ送迎実施状況》

4月	お花見（平筒沼）	利用者 17名	スタッフ 12名
5月	買い物（蛇田）	利用者 8名	スタッフ 6名
6月	買い物（中里ヨーク）	利用者 16名	スタッフ 13名
7月	整体・体操	利用者 16名	スタッフ 11名・整体師 1名
8月	買い物（ヨーカドー）	利用者 10名	スタッフ 7名
9月	お茶っこ・歌っこ	利用者 22名	スタッフ 7名・楽団 3名・ 東京都千代田区学生ボラ 11名
9月	墓参り	利用者 12名	スタッフ 10名
10月	買い物（イオン）	利用者 8名	スタッフ 12名
11月	日帰り温泉（田尻）	利用者 19名	スタッフ 13名
12月	買い物（蛇田）	利用者 18名	スタッフ 9名
1月	お茶っこ・カラオケ	利用者 22名	スタッフ 16名
2月	買い物（ヨーカドー）	利用者 15名	スタッフ 10名
3月	墓参り	利用者 19名	スタッフ 13名
<b>合計</b>		<b>202名</b>	<b>154名</b>

《Iの事業に要した費用》……9,032千円

## Ⅱ. 福祉有償運送事業

2017年度は送迎をこれまで通りの道路運送法上「無償の範囲内」とされる実費以下の利用者負担による送迎として行ったため、福祉有償運送事業を行わなかった。

## Ⅲ. 情報収集・調査・情報発信事業

### Ⅲ-1. 【福祉送迎講習会】

前年度に引き続き、移動支援の担い手育成、地域での助け合い送迎促進、地域の事業者やボランティアの送迎技術向上を目的とし、福祉車両等を使用した移動困難者の送迎や介助等を総合的に学ぶ講習会を実施した。

#### 《活動概要》

- ◆ 福祉車両の操作、運転技術講習、移乗・介助、接遇、リスク管理、防災等、福祉送迎をおこなうにあたり必要な知識や技術を学ぶ講習会。
- ◆ 全国および宮城県内で国土交通大臣の認定運転協力者講習を開催している講師を依頼した。当団体のスタッフは講師補助として技術提供や進行役などを担うほか、自らも受講生として意識や技術の向上に努めた。
- ◆ 前年度に引き続き、異なるプログラムによる年3回のシリーズ開催とした。国土交通大臣認定の科目をすべて含め、独自の講義科目と合わせた講習プログラムを用意した。全科目を受講した者には国土交通大臣認定の運転協力者講習修了証を発行（発行者：NPO法人移動サービスネットワークみやぎ）。1回のみ受講も可能。

#### 《講習内容》

##### 第1回講習会

【日時】 2017年11月12日（日） 9：30～16：00

【場所】 石巻専修大学5号館5302教室

【講義内容】 ①研修の目的 ②利用者心理と接遇 ③車いす操作とガイドヘルプ  
④リスク管理

【講師】 関西STS連絡会：柿久保浩次氏、金子知可子氏  
移動サービスネットワークみやぎ：坂井正義氏  
みらいサポート石巻：中川政治氏

【参加人数】 受講者 20名

#### 【講習の様子】

座学では送迎活動に携わる者としての心構え、移動サービスの枠組みについての整理等、活動

に關係する基本を学び、実技実習では車いす操作の基礎を体験した。リスク管理はワークショップ形式をとり、グループに分かれて活動に關係するリスクの洗い出し等を行った。

多くの受講者が3回通しの受講を申し込んでいることもあり、受講者同士、同じグループ同士の交流ができるよう気を配った。

福祉系の仕事をしている人、初めて車いすを触る人など、受講生のレベルもそれぞれであるため、基本的な動作を学ぶことを第一回目の実技実習の目的とした。ガイドヘルプなどの実体験を通して、印象深い実習であったようだ。



## 第2回講習会

【日時】 2017年11月26日(日) 9:30~16:00

【場所】 石巻専修大学5号館 5302教室

【講義内容】 ①救命救急 ②移動困難者の防災 ③車いす介助・移乗  
④介助者のメンタルケア

【講師】 NPO法人生きる：宮脇貞夫氏、宮脇真理子氏  
石巻市：伊勢理加氏、伊勢知那子氏  
石巻消防署

【参加人数】 受講者 25名

### 【講習の様子】

石巻消防署のご協力により、消防署員による出張救命救急講座を開催した。

また、取手市の『障がい者のための防災マニュアル』をテキストに使用して、さまざまな障害を持つ人の防災、災害時の避難について等を学ぶと同時に、石巻の被災障害者である伊勢さん親子の体験談を共有し、災害について考えた。

実技実習では災害が起きた際の避難所などを想定した段差介助、体の負担の少ない移乗等の練習を行った。その後、講師の宮脇さん夫婦の体験をもとに、介助者のメンタルケアや「心のバリアフリー」について学ぶ時間を持った。

全体のテーマが「災害、防災」の回となり、被災当事者、障害当事者の実体験に触れる機会が多く、受講者は時おり涙ぐみながらも真剣に受講していた。



### 第3回講習会

【日時】 2017年12月10日（日） 9:30~16:00

【場所】 石巻専修大学5号館2回5302教室、大学周辺の路上実習

【講義内容】 ①交通法概論 ②安全運転 ③利用者理解  
④運転実技 ⑥移動支援のこれから、修了に向けて

【講師】 ホップ障害者地域生活支援センター：竹田保氏、齊藤光弘氏、田島充氏、番場弘匡氏  
移動サービスネットワークみやぎ：坂井正義氏

【参加人数】 受講者 21名

#### 【講習の様子】

座学では交通に関係する制度や法律、送迎活動を行うにあたっての留意事項などを学び、利用者の立場になった関わりの大切さについて、実体験を交えながら考える機会を持った。

実技実習は路上での運転講習を行い、一人一人運転者と利用者を交代で体験しながら講師と共に走った。また、片マヒ体験の装具を身につけ、車いすの利用者をセダン車両に移乗する実技実習を行った。

最後には、受講者へのメッセージと共に、全ての講習を修了した受講者に認定証が手渡された。時間いっぱいになってしまったが、充実した講習となった様子だった。



### Ⅲ-2.【他団体向け送迎技術研修】

- ◆ 利用者の送迎を行う団体や地域の助け合い送迎を行う人などを対象とした、送迎の実習受け入れを行った。
- ◆ 年度内に実習用のマニュアル作成を計画していたが、完成には至らなかった。
- ◆ 実技実習受け入れ人数：1名（NPO 法人 TEDIC より）

### Ⅲ-3.【多業種によるネットワーク構築】

- ◆ “移動”を共通課題として、他業種と相互に相談、情報共有できるネットワークを育てるためのさまざまな活動を行った。

#### 持続可能な“暮らしの足”を考えるフォーラム in 東北

- ◆ 2016 年度に岩手、宮城、福島でそれぞれ開催した「持続可能な暮らしの足を考えるフォーラム」の継続で開催。2017 年度は「in 東北」として仙台で開催した。
- ◆ 実行委員会形式で、みやぎ連携復興センターが復興庁事業として開催。移動支援 Rera は実行委員として協力した。
- ◆ テーマは「垣根を越える」「間をつなぐ」。交通、地域、福祉のそれぞれが重なり合う「間」を広げることで、さまざまな分野が協力して移動の課題を考える場を作った。
- ◆ 行政職員（交通、福祉、復興関係）、NPO、事業者（交通やまちづくり等）、大学等、さまざまな分野の参加者が集った。

【日時】 2018 年 3 月 4 日（日） 13：00～17：00

【会場】 住友生命仙台中央ビル 8 階 宮城大学サテライトキャンパス第一会議室

【プログラム】 第一部：ミニ講演 第二部：トークセッション

【参加者】 聴講者：59 名 登壇者・関係者：22 名



### Ⅲ-4【公共交通利用促進事業】

#### 石巻交通検索 Web サイト運営

- ◆ 前年に引き続き、青森県八戸市の青い森ウェブ工房に委託し、検索内容の充実と、データ更新、スマートフォン対応などのデザイン変更等を行った。[\(http://ishinomaki.buste.in/\)](http://ishinomaki.buste.in/)

#### 「石巻ミステリーツアー」開催

- ◆ 公共交通を利用し実体験することで地域の交通を理解し、「知らない」ことによる心理的な抵抗を減らして将来的な利用促進につなげるためのお出かけイベントを開催した。
- ◆ 当団体で運営する交通検索 Web サイトを使用し、バス等を利用したお出かけ（遠足）プランを作成。その後、実際に一緒にモデルプラン通りのお出かけを楽しみながら、Web サイトのモニタリング、交通のモニタリングを兼ねて検証。
- ◆ 呼びかけ期間が短かったことと他のイベントに重なったこと、地域では初めての聞き慣れない試みだったこともあり、参加者は少なかったが、「今回は無理だが次回ぜひ参加したい」という声も多く届けられた。
- ◆ 全く初めてのイベントであったが、気づきの多い非常に有益な一日となった。Twitter、Facebook 等の SNS をリアルタイムで更新し、参加できなかった全国各地の人々にも拡散され、注目を受けながら活動した。

【日時】 2017年12月23日（土・祝） 11:00～17:00

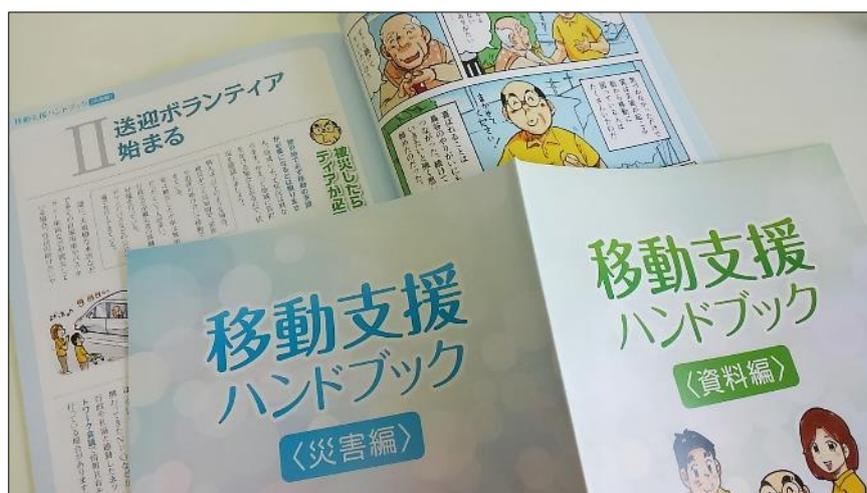
【場所】 コワーキング@石巻～石巻地域

【参加者】 5名



### Ⅲ-5【移動支援ノウハウ冊子作成】

- ◆ 災害時および日常時における、住民主体の送迎支援活動などの事例を紹介する冊子を作成した。
- ◆ 一冊で「災害編」「資料編」の二部構成。「災害編」はマンガと解説の三部構成で右から左へページを送り、「資料編」は横書きで左から右へページを送る、どちらも表紙の「両開き」形式。
- ◆ 「災害編」…架空の町で水害が発生→ボランティア送迎開始→災害後への移行、の流れを時系列でマンガ形式で紹介しつつ、解説文を挟む。
- ◆ 「資料編」…送迎を行う際に知っておきたい法律や制度について、送迎に必要な物やリスクについてなどを紹介している。



《Ⅲの事業に要した費用》……3,236 千円

## IV. 住民同士の交流・親睦事業

2016 年度は事業を行わなかった。

## V. その他の事業

### V-1【外部協力者と連携した組織基盤強化】

- ◆ 継続事業として、組織づくりの専門家として地域社会デザイン・ラボの遠藤智栄氏をアドバイザーに招き、組織力の向上のための研修等に取り組んだ。
- ◆ 月に一度スタッフ全員参加の研修会を開催。事務所以外の研修会場を借用して実施した。
- ◆ 年度内に実施する事業の進捗確認、意見交換、アイデア出し、シミュレーション、安全運転講習やリスク管理などのほか、運転実技の研修や福祉車両操作などの実務的な研修も実施した。
- ◆ 月に一度、毎日の送迎業務から離れて事業全体を見渡したり、中長期計画を考えたり、運営上の課題について意見を出し合うのに有益な、組織運営上欠かせない場となっている。

## 《実施日程》

4月18日	第1回	『キックオフ、ボランティア募集、今年度の計画』他
5月18日	第2回	『SNS投稿記事を作ってみよう』他
6月19日	第3回	『年間計画の担当決め、ガイドヘルプ実習』他
7月27日	第4回	『行動指針活用、年間計画、介助技術実習』他
8月28日	第5回	『行動指針、安全運転、スタッフと運営の課題』他
9月20日	第6回	『年間計画、寄付募集、他団体連携会議』他
10月9～10日	第7回	合宿『活動の振り返り、中長期計画』
11月10日	第8回	『事業進捗確認、運転実技実習』他
12月7日	第9回	『3年後の組織を考える、募金キャンペーン』他
1月22日	第10回	『募金キャンペーン、認知症勉強会』他
2月15日	第11回	『次年度計画アイデア出し、福祉車両操作実習』他
3月19日	第12回	『事業計画、2020年度以降について、振り返りと今後』他



《Vの事業に要した費用》……1,414千円

## VI. 運営に関する報告

### 移動支援 Rera 会員数

正会員	16名	(前年より2名減)
賛助会員	65名	(前年と同数)

### 寄附・寄贈

◆ 2017年度受取寄附金	8,216,511円	(前年比 -704,623円)
◆ 2017年度 寄附件数	293件	(前年比 +109件)

以上